

「アサヒカーボンゼロ」の取組みについて

2030年CO₂排出量削減目標を上方修正

本年2月、2050年のCO₂排出量ゼロを目指す中長期目標「アサヒカーボンゼロ」*1の達成に向けて取組みを加速させるべく、2030年の目標値を従来の30%削減から50%削減に上方修正しました。

本目標については、SBT (Science Based Targets) イニシアチブ**2から気候変動による世界の平均気温上昇を産業革命前と比べ1.5度未満に抑えるという、「1.5℃目標」*3認定を取得しました。

新たな目標達成のために、国内外の製造拠点における再生可能エネルギーの積極的な活用や、製造工程の見直し、物流の効率化などにグループ全体で取り組んでいきます。欧州では、2030年までに工場のカーボンニュートラルを目指しています。なお、事業に使用する電力を100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す国際的なイニシアチブ「RE100」には2020年10月29日から加盟しています。



豪州にあるCarlton & United Breweries (CUB) のヤタラ醸造所 (Yatala Brewery) では、屋上に7000枚のソーラーパネルを設置 (2021年中に完工予定)。

取組み事例



「アサヒカーボンゼロ」目標の変更について

Asahi Carbon Zero

	2018年制定時	2020年12月改訂
2050年目標	Scope 1,2及びScope 3**4でCO ₂ 排出量ゼロ	変更なし
2030年目標	Scope 1,2でCO ₂ 排出量 30%削減 (2015年比)	Scope 1,2でCO ₂ 排出量 50%削減 (2019年比)
	Scope 3でCO ₂ 排出量30%削減 (2015年比)	変更なし



風力発電のみで製造するポーランドのビールブランド「Lech」。分かりやすいマークを缶体やパッケージに明記し、訴求。

*1 アサヒグループのCO₂排出量削減の中長期目標で、2050年にScope 1,2及びScope 3にてCO₂排出量ゼロを目指す取組み。2030年目標は、従来はScope 1,2及びScope 3にて(2015年比)30%削減としていましたが、今回、Scope 1,2にて(2019年比)50%削減とする目標に上方修正しました。

*2 CDP、国連グローバルコンパクト、WRI (世界資源研究所)、WWF (世界自然保護基金) が共同で設立。企業のCO₂排出量削減目標が科学的な根拠と整合したものであることを認定する国際的なイニシアチブ。

*3 2019年の国連気候行動サミットやCOP25などの国際議論において、地球温暖化による気温上昇を従来の2℃から1.5℃に抑制することが広く議論されていることから、新基準として1.5℃が目標となりました。

*4 Scope 1は、自社(工場・オフィス・車など)での燃料の使用によるCO₂の直接排出、Scope 2は、自社が購入した電気・熱・蒸気の使用によるCO₂の間接排出、Scope 3は、自社のバリューチェーンからのCO₂の排出を指します。